

令和 8 (2026) 年度「全国学力・学習状況調査」結果速報

令和 8 年 8 月
下野市教育委員会

調査について

1 調査の概要（「全国学力・学習状況調査」実施要領より一部抜粋）

（1）調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（2）調査実施日

令和 8 (2026) 年 4 月 23 日（木）

（3）調査対象

- ①小学校調査：小・義務教育学校第 6 学年
- ②中学校調査：中学校第 3 学年、義務教育学校第 9 学年

（4）調査事項及び手法

①教科に関する調査

- ・小学校調査：国語、算数
- ・中学校調査：国語、数学、英語
- ※中学校調査の英語は、ICT 端末を用いたオンライン方式で実施

②児童生徒質問調査

- ・内 容：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等
- ・方 法：ICT 端末を用いたオンライン方式
- ・質問数：（小学校）79 項目
（中学校）86 項目

③学校質問調査

- ・内 容：指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等
- ・方 法：ICT 端末を用いたオンライン方式
- ・質問数：（小学校）95 項目
（中学校）101 項目

（5）留意事項

本調査の結果は、学力の特定の一部であること、学校における活動の一側面であることに留意し、児童生徒の全般的な学習状況への指導・改善等につなげるよう留意する。

2 本市の参加状況 ※参加人数は最も多かった教科のもの

調査対象内訳	参加校数	参加人数
小・義務教育学校第 6 学年	9 校	494 人
中学校第 3 学年・義務教育学校第 9 学年	4 校	434 人

本市の結果について

※小学校には義務教育学校前期課程、中学校には義務教育学校後期課程を含みます

1 概要

【教科に関する調査の結果】※下野市と県、全国の平均正答率の比較

- ◎ 大きく上回っている(5ポイント以上)、○ 上回っている(1ポイント以上5ポイント未満)
 — 同じ(±1ポイント未満)
 ▽ 下回っている(1ポイント以上5ポイント未満)、▼ 大きく下回っている(5ポイント以上)

小学校第6学年			中学校第3学年		
教 科	県との比較	全国との比較	教 科	県との比較	全国との比較
国 語	○	○	国 語	○	○
算 数	○	○	数 学	◎	◎
			英 語	※	※

※中学校英語については、各学校で出題された問題が異なるCBT調査のため、県・全国との比較なし

2 結果の推移（全国平均正答率との比較）

【直近 10 年間の結果】

- ◎ 大きく上回っている(5ポイント以上)、○ 上回っている(1ポイント以上5ポイント未満)
 — 同じ(±1ポイント未満)
 ▽ 下回っている(1ポイント以上5ポイント未満)、▼ 大きく下回っている(5ポイント以上)

学年	教 科	H29	H30	H31	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
小学校第6学年	国語A	○	○	○	一斉実施なし	○	○	○	○	◎	○
	国語B	○	○	○							
	算数A	○	○	○		○	○	○	○	◎	○
	算数B	○	○	○							
	理 科	△	○	△		△	○	△	△	◎	△
中学校第3学年	国語A	—	○	○		○	○	○	○	○	○
	国語B	○	○	○							
	数学A	○	—	○		○	○	○	○	○	◎
	数学B	○	○	○							
	理 科	△	○	△		△	◎	△	△	※	△
	英 語	△	△	○		△	△	○	△	△	※

※平成 31 年度より A 問題と B 問題の区分なし

※令和 7 年度中学校理科については、各学校で出題された問題が異なるCBT調査のため、県・全国との比較なし

※令和 8 年度中学校英語については、各学校で出題された問題が異なるCBT調査のため、県・全国との比較なし

児童生徒質問調査の結果について

質問別肯定率が算出できる項目における回答率の県平均との比較を行った（小学校全 56 項目、中学校全 63 項目）。小学校第 6 学年では、県との比較では 33 項目、全国との比較では 46 項目が同程度または上回る結果となった。中学校第 3 学年においては、県との比較では 39 項目、全国との比較では 49 項目が同程度または上回る結果となった。